



7. 28『健康な人生を送って頂くための』講演会開催致しました。



今年の夏も暑い日が続きましたが、お変わりございませんか。
7月28日に開催致しました『健康な人生を送って頂くための』講演会には、暑い中、約250名の方々に御越し頂きまして、心よりお礼申し上げます。

前田教授の「健康とバリアフリー」についてのお話は、バリアフリーと言っても必ずしも体が不自由な方や高齢者だけでなく、

国籍、老若男女、身体的状況も問わずすべての人が使いこなせる設計をと考えられているユニバーサルデザインで、誰もが使いやすい住宅にすることが大切だとおっしゃっていました。



【岩前教授】

岩前教授は「住まいと健康を考える」をテーマに講演して頂き、

住まいは断熱性を上げることで、健康で過ごせるという事をさまざまなデータをもとにお話頂きました。例えば、死亡率も夏に比べ冬の方が多く、特にお風呂場やトイレでの事故が多く、これには、温度差が大きく関係しています。

冬の夜、トイレに起きて、寝室からトイレに行くまでの温度差により、ヒート

ショックで身体に大きな負担をかけている事や、断熱性の高い住宅へ住み替えた人の健康改善効果など、「断熱性をよくする事で温度差を感じる事なく、健康に過ごせる」食生活に気をつける事も大切ですが、住環境を整える事も健康な暮らしにかかせない事ではないかと思いました。また、講演を拝聴されたお客様からは、健康と住まいの関わり大切さを知り建物の性能についてより理解が深まったなど感想も頂きました。

講演会が皆様の健康な人生に少しでもお役に立ちましたら幸いに存じます。ご拝聴ありがとうございました。



【前田教授】

寝室・廊下・トイレの温度差イメージ



トドのひとり言 つがつ。。。

介護は手抜きが必要?か

7月28日当社が行いました「健康な人生を送って頂くための」の講演会は250余名の方々が聞いて下さいました、ありがとうございました。タイトルの「健康な人生を送って頂くための」は社長の発案でしたが、私の気持ちにピッタリと賛成しました。私は28日の3日前に73才になり、人生もこれで終わりかと思いましたが、平均寿命・80才（男性の場合）と聞き、あと7年無事元気であるにはどうすれば良いか、何としても80才迄生きたくなり、この講演も楽しみに聞きました。前田教授の「バリアフリー」は私が病気になった時から自分の身体で生活するにはハードな面、ソフトな面でバリアフリーなしでは生活出来ませんので、私の考えと同じと思う話がありました。岩前教授は家の中の温度差が無い家に住むのが良いのではないかとのお話でした。自分が脳内出血で倒れた平成5年9月は、今年と同じように残暑が厳しい時でした。外の気温とホテルの中の温度差が20度以上はあったと思います。会議中に何の前触れもなく、頭の中の血管が切れ、左半身不随になりましたが、バリアフリーの家に住み、高気密高断熱の家に住んでいるお蔭で、9月で19年間も元気で仕事に励んでいられます。前田教授の介護は手抜きが必要と言うのは、何をしても手を貸すと手足の筋肉が衰え、歩けなくなってしまうと言う事のようなのです。この講演を聞いてから女房は「自分でしなさい」と言ってくる様になりましたが、私としては手助けもほしい。。。。

借金から始めた三和住建も今年で35年。。。40年、50年と他社に負けない会社になるようお互い頑張りましょう。陰の力としてよろしく。